

【研究員の視点】

ノッティンガムにおけるまちづくりの取り組み

運輸調査局 研究員 永瀬 雄一

※本記事は、『交通新聞』に執筆したものを転載いたしました

■はじめに

ロンドンから北へ電車で約2時間、12世紀のイギリスの英雄、ロビンフッドの伝説が残るシャーウッドの森が郊外にあるノッティンガム (the City of Nottingham) は、イングランドのほぼ中央に位置する人口約28万人の都市で、郊外を含めたエリアは大ノッティンガム (Greater Nottingham) と言われ、人口約63万人を擁するエリアである。

ノッティンガムでは現在、「持続可能な社会」を念頭に入れたまちづくりに取り組んでいる。「持続可能な社会」では、温室効果ガスのような環境負荷の削減とともに、地域や地域住民の社会生活の質の向上も重要な論点となっており、地域住民が果たす役割の重要性はもちろん、地域コミュニティや市街地のあり方が問われる。

まちづくりの中心をなしている施策がノッティンガム ローカル・トランスポート・プラン (Local Transport Plan: LTP) である。LTP は、イギリス政府がイングランドとウェールズの都市・都市圏の地方自治体 (ロンドンをのぞく) に対して行う地方都市交通のための5ヶ年計画プロジェクトである。地方自治体の裁量が認められており、ノッティンガムでは単なる交通政策にとどまらず、「持続可能な社会」の構築を視野に入れ、行政が

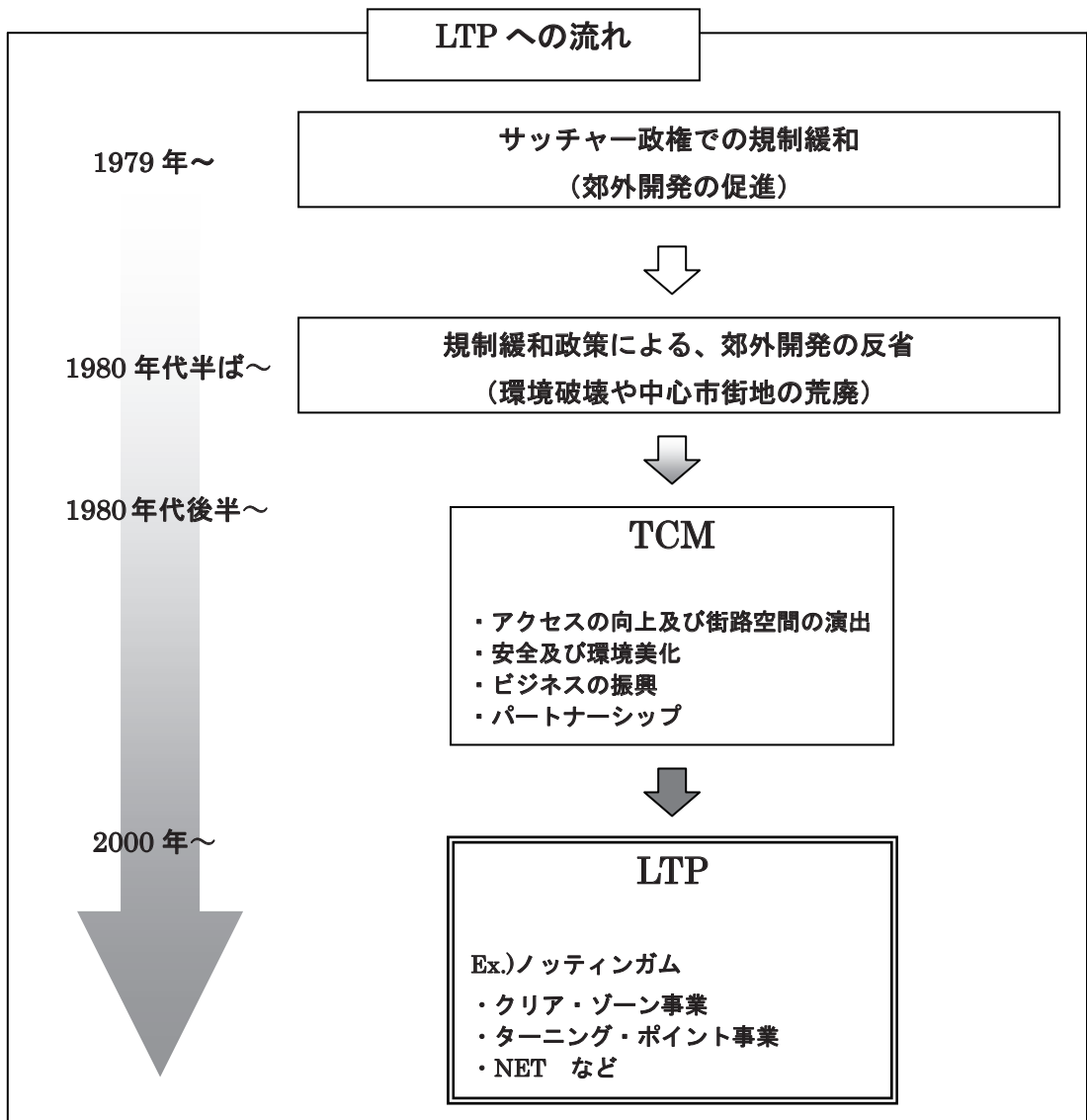
中心となり交通政策を中心とした中心市街地の再開発を行っている。

■TCMの推進

ノッティンガムではLTPに先駆けて、タウン・センター・マネジメント (Town Centre Management: TCM) において成功を収めている。TCMは1980年代後半から、民間企業が中心となって行われているもので、行政と住民、企業など、地域のステークホルダーが参加し、中心市街地全体を大きなショッピングセンターと考え、運営・管理をするものである。

イギリスでは1979年のサッチャー政権誕生に伴い、エンタープライズゾーンや都市開発公社の設立、都市開発補助金、都市再生補助金といった、郊外開発に関する規制緩和政策により、郊外型大型ショッピングセンターの出店が急増し、各地域における中心市街地の衰退が急速に深刻化していった。この中心市街地の衰退を防ぎ、再活性化させるため、政府はTCMを奨励した。ノッティンガムにおいても、繊維産業の衰退と近隣地域に大型ショッピングセンターの建設計画により、市街地活性化に取り組むことになる。

TCMについて、ノッティンガムでは、特にアクセスの向上に力点を置き、中心市街地の歩行者優先エリアの拡大、駐車場の改善、



駐車場情報案内システム、パーク & ライドの推進、深夜バスの運行など総合的な交通対策を採った。これらの施策を行うために、行政と民間企業とで NPO を設立し、コーディネーターとして行政ではできないサービスや付加価値の高いサービスの提供を企画し、行政や関係者への働きかけ・調整・プロモーションを行っている。結果、商圏人口が 1990 年の 75 万人から 1997 年には 200 万人に

なったといわれており、中心市街地が活性化されていることがわかる。

■ノッティンガム LTP について

ノッティンガムは 2000 年に TCM の成功を土台としてノッティンガム LTP を策定した。ノッティンガム LTP は中心市街地活性化、障害者・高齢者の社会的機会・社会的サービスへの接触の拡大などを中心コンセプトとし、地域のステークホルダーの積極的な

協力によって事業が推進されている。

具体的には、まず、「クリア・ゾーン事業」がある。日中の中心市街地へのすべての通りとその周辺の全通行路への自動車入場規制の段階的な導入である。このエリアでの歩行者優先を促進し、包括的なバスネットワークの見直しなど公共交通システムが改善され、後述するノッティンガム・エクスプレス・トランジット（Nottingham Express Transit: NET）が通る道路から自家用車を排除した結果、バス・タクシー・自転車が移動しやすい状況になった。他に、交通ルートを再編し、公共交通の利用者と歩行者のより良い関係を作ろうとする「ターニング・ポイント事業」では、市街地道路の歩行者や自転車などに対する障害を減らし、バス利用者の状況と歩行者の安全性が改善されている。NET は全長 14km のライトレールシステムで、2004 年 3 月開業した。中心市街地を通る 4 km は併用軌道区間で、車両は道路上を走行している。バリアフリーに配慮した構造となっており、パーク & ライドや他の公共交通機関との連

携も推進されている。NET は現在は 1,000 万人を超える乗客が利用しており、利用者数は年々着実に増加している。ここ 5 年間でノッティンガムでの交通量増加率が 1% 以下に止まっているのと同時に、同期間における公共交通機関の利用率は 8% 上昇している。乗客満足度調査では、94% が満足と答えている。

■おわりに

ノッティンガムのまちづくりの事例を紹介した。行政と住民、ステークホルダーが協働して「持続可能な社会」の構築を意識した交通政策を推進している。日本においては、タウン・マネージメント・オーガニゼーション（TMO）が、行政と協働して、中心市街地の活性化を目指し、まちづくりを行っている地域も多い。TMO の活動に LTP のような交通政策を積極的に取り入れ、安全性やアクセスの向上や環境への配慮をしていくことで、TMO の機能も強化されるのではないだろうか。